

桜魂をもった人間力あふれる生徒の育成 —茨城町立桜丘中学校—

茨城町立桜丘中学校（雨谷正明校長）は、「桜魂をもった人間力あふれる生徒の育成」を目指し、特色ある教育活動を展開し、学力や体力の向上に成果を上げています。桜丘中学校の主な取組を紹介します。



● 合い言葉は「桜魂」

桜丘中学校の教育理念である「時を守り 場を清め 礼を尽くす」ことを「桜魂（さくらだまい）」と呼んでいます。今年度、桜丘中学校では、次のような5つの重点目標を達成することで「桜魂」を育てようとして取り組んでいます。

- 1 授業に真剣に取り組む（着席・姿勢・ノート）
- 2 健康管理をしっかり行う（無欠席・無遅刻・無早退、部活動）
- 3 集団のきまり・ルールを守る（服装・身だしなみ）
- 4 係・当番活動の責任を果たす（清掃・当番活動・学級の係活動）
- 5 学級の仲間とのコミュニケーション（挨拶・声をかけ合う、共に活動・協力）



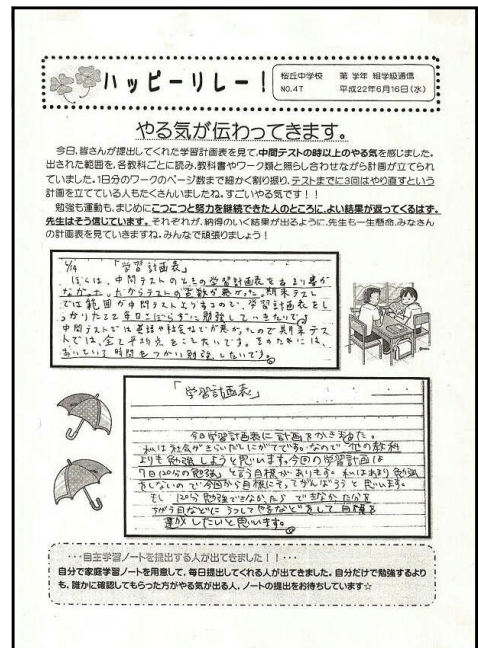
「桜魂」は、桜丘中学校の合い言葉として生徒に浸透しています。「桜魂」と聞くだけで、生徒はどうしなければいけないかを理解し行動することができます。生徒からも、学校生活の様々な場面で「桜魂でがんばる。」「桜魂で取り組もう。」などの声が上がっています。

● 班日誌を活用した学級づくり

桜丘中学校では、全学級で班日誌に取り組んでいます。4～6人の班員が毎日交代で班日誌を書き、担任の先生に提出しています。担任の先生は、班日誌を読んでコメントを書き、その日のうちに返しています。

さらに、担任の先生は、班日誌の中から、クラス全員に伝えたい内容を取り上げ、その部分を引用して学級通信を作成します。班日誌の内容が学級通信に取り上げられるので、生徒も班日誌に真剣に取り組んでいます。学級通信で取り上げられた級友の考えを共有することで、互いに認め合い、みんなで努力しようとする気運が高まり、まとまりのある学級づくりが行われています。

このように班日誌は、学級経営の基盤であり、学級通信は、班日誌と連動することで学級経営の軸となっています。そのため、全担任が、毎日のように学級通信を発行しています。このような担任の努力を支えるとともに、協力して学年・学級づくりを進めるために、学年主任も積極的に学年通信を発行しています。



班日誌を引用した学級通信

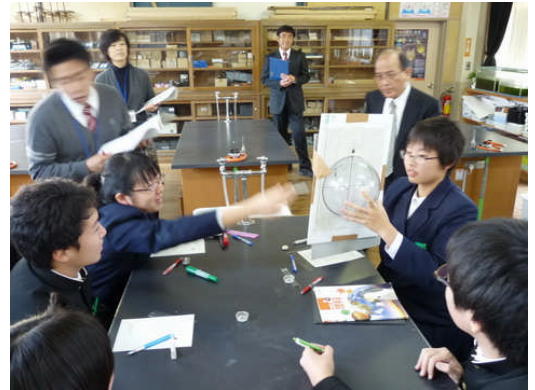
※ 2010年度「県教育広報・NIEコンクール」教師作成部門・県知事賞
桜丘中学校では、学級通信、学年通信の他にも、学校だより、保健だより、生徒指導通信、ALT通信など多くの情報発信を積極的に行い、保護者や地域から信頼される学校づくりを進めています。その取組が認められ、県知事賞を受賞しました。(2011.2.13)

● 地域親善大使

桜丘中学校では、2年生全員を地域親善大使に任命しています。地域親善大使の主な役割は、学校だよりなどを区長さんに届けることです。各区に2～4人の生徒が割り当てられており、訪問するときは、顔写真や氏名などを記したネームプレートを下げて行きます。区長さんは、中学生が来ること、中学生から学校の話の聞けることを楽しみにしているそうです。学校からのたよりは、区長さんを通して地域に回覧されます。このような取組から、区長さんをはじめ地域の方が以前よりも学校の様子に関心をもってくれたり、体育祭などの学校行事にたくさん参加してくれたりするようになりました。

● 学び合いから伝え合い

桜丘中学校では、これまで「学び合い」を指導目標に、友達と考えを出し合い、教えたり教えられたりすることで、学力の向上を図ろうと取り組んで来ました。しかし、2年間の実践から、「学び合い」が一部の生徒の間でしか成立していないことが分かりました。その反省を踏まえて、「学び合いから伝え合い」を新たな指導目標としました。そして、どう考えればよいか分からない、考えや意見をもてないなど困っている仲間を助ける生徒の育成に力を入れることにしました。その結果、友達に教えることで自分自身さらによく分かるようになったという生徒が増えたり、自分がどこまで分かり、どこから分からないかを素直に言える生徒が増えたりしました。今では、学力とは「伝え合う力」だとの考えが桜丘中学校の共通認識になっています。伝え合うことができれば人と人とはつながります。人をつなぐのに役立てば、学んだ知識は学力になります。



● 生徒間の相互授業参観



桜丘中学校では、生徒が自分の授業態度を振り返る手だてとして、それぞれの学年がお互いに授業を参観する相互授業参観を行っています。11月8日（金）には、1年生が2年生と3年生の授業を参観しました。参観する前に、今の自分の授業態度を振り返り、改善すべき点を考えました。そして、課題へ取り組む態度、話の聞き方、発表の仕方、話合いの仕方、ノートのとめ方など、各自が授業参観の視点をもって臨みました。その結果、「誰もが真剣だ」「姿勢が正しい」「私語がない」「積極的に自分から発表している」「黒板を写すだけでなく、先生の説明もノートに書いている」「赤ペンや定規を使い見やすくノートしている」など

先輩の授業態度から学ぶことができました。

3年生は、1年生や2年生の授業を参観しますが、下級生が3年生を見習ってがんばっていることに気がつき、自分たちの姿で下級生を育てることができるという気持ちになりました。3年生は、下級生のよいお手本になることを自分たちの目標として取り組んでいます。

● 15分間走

火曜日から金曜日の4日間、帰りの会が終わった後、全校生徒がグラウンドに集合し、15分間走を行います。最初の5分間は、部活動毎に集団となりかけ声をかけながら走ります。残りの10分間は自由に走る時間です。各自の体力や目標に合わせて走ります。誰一人立止まったり歩いたりする生徒はいません。15分間走を続けてきた結果、生徒の体力は向上し、今年度も体力テストで好成績を上げることができました。

15分間走の後は、部活動です。15分間走が終わったら、すぐに部活動に取りかかるなど、時間も有効に使うようになりました。体力だけでなく最後まであきらめない態度も身に付き、部活動の好成績にもつながっています。



● 朝のボランティア活動



7時50分～8時10分までの20分間は、朝のボランティア活動の時間です。特に強制したわけではありませんが、いつの間にか全校生徒が参加する清掃活動となりました。正門に続く坂から玄関にかけては3年生、校舎やプールの奥の方は1年生、3年生と1年生の間の部分は2年生と、自然に分担ができ、毎朝掃き掃除を行っています。ボランティア活動は、学校生活の他の場面でも見られます。例えば、国旗掲揚や池のコイの餌やりなども、係を決めなくても自然に誰かがやってくれています。先輩のそんな姿を見て、後輩が先輩の活動を代々引き継いでくれます。桜丘中学校のボランティアの輪はますます広がっています。

● 縦割り団の活動

桜丘中学校には赤団、青団、黄団、緑団の4つの縦割り団があります。生徒は、1年生の時に4つの団のいずれかに所属し、3年間同じ団で活動します。縦割り団の主な活動は、体育祭や人権集会などの学校行事、地域清掃などのボランティア活動です。

特に体育祭は、3年生の団長を中心に団員が力を合わせて優勝を目指すもので、応援する保護者や地域の方にも大きな感動を与える行事です。生徒にとっても、中学校の忘れられない思い出の一つとなります。自分の所属した団への思いから、卒業生もたくさん応援に来てくれます。今年も、卒業生が団のTシャツを着て、応援に来てくれました。卒業生は、後輩を応援するだけでなく、体育祭の後片付けを手伝ってくれました。その姿も感動的でしたが、それを見習った中学生が、小学校の運動会の後片付けを手伝ったということが後で分かり、さらなる感動を呼びました。先輩のよい行いを見習って成長することも「桜魂」の一つとして根付いています。



● 全校トイレ清掃



10月3日(日)、生徒、保護者、教職員、ボランティアの参加者が集まってトイレ清掃を行いました。各班に分かれて徹底的に便器を磨いたり、階段やトイレの床などの汚れを落としたりしました。便器の数が限られているので、全員で便器磨きを行うことはできません。そのため、卒業するまでに一度は必ず便器を磨けるように班を割り振っています。今年で5年目となる活動ですが、参加された方々から「この学校の生徒さんはすごいね。」など、いつもお褒めの言葉をいただきます。人間は毎日見ているものに心が似てくる、トイレが汚ければ心がすさむと言われますが、桜丘中学校の便器はピカピカです。全校トイレ清掃は、心を磨く活動となっています。

● 9年間で育てる小中連携

桜丘中学校では、保護者に、次のような8つの内容(「学校のこれだけは」と総称している)を示し、生徒が実践できるように指導することを約束しています。今年度からは、学区内の小学校でも同様に指導し、8つの内容を9か年で育てることにしました。桜丘中学校では、小中連携も積極的に進めています。

- 1 元気で、気持ちよいあいさつ
- 2 素直な返事とありがとう
- 3 班日誌
- 4 温かい会話
- 5 品のある身だしなみ
- 6 黙動による清掃活動とボランティア活動
- 7 毎日続ける朝読書と15分間走
- 8 各種たよりの発行